

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(1)

「犬という字の、は耳なんだよ。」

週に一度の祖父母を交えての夕食の席で、小学一年のタモツ君が言いました。

「おじいちゃん、犬という字の、は耳なんだよ。知ってた？」

「ほう。おじいちゃんは知らなかったなあ。」

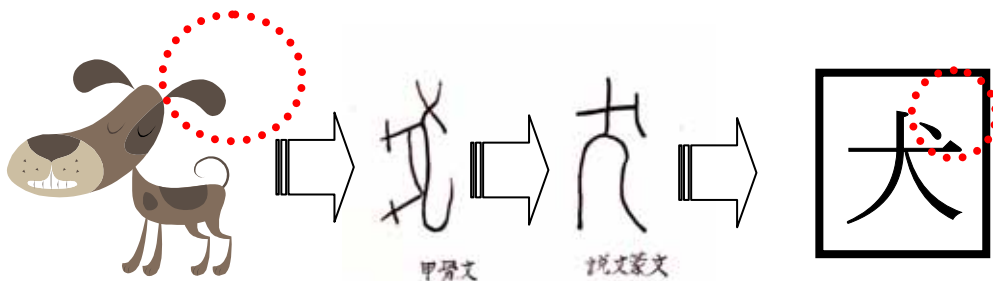
「おばあちゃんは？」

「おばあちゃんは知っていましたよ。犬の形を写した字で、は耳なのよね。タモっちゃん
は、太陽の太という字の、はなんだか知っていますか。」

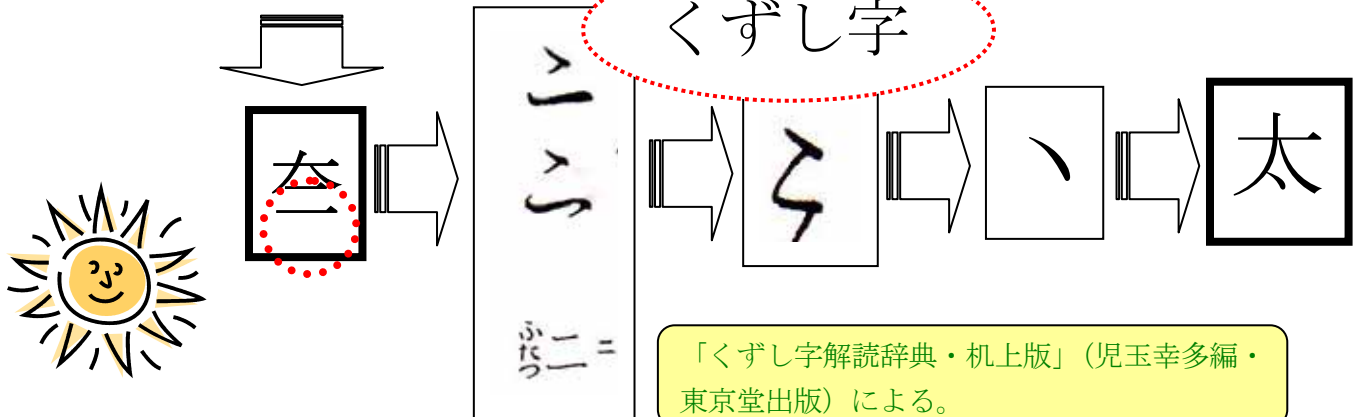
「知らない。まだ教わってないもん。」

「それは、おじいちゃんにもわかる。太陽には黒点があるからだろう。」

「おじいちゃん、でたらめを言ってはいけませんよ。太という字は、厶という字だったの。
その二が、 became the dot. 太は、大きい大きいということだったのね。」



大 × 2 = 厶 (たい)



「くずし字解説辞典・机上版」(児玉幸多編・東京堂出版)による。

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムの際にでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(2)

「刃のゝは、『刀のここ』という“しるし”。」

教科書の漢字表を見ていたタモツ君が言いました。

「お母さん、「刀(かたな)」に、ゝのついた字がある！」

「ああ、「刃(は)」という字でしょう？」

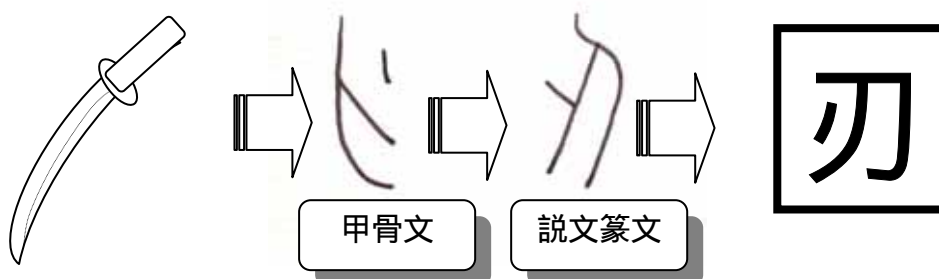
「うん。「は」って書いてある。」

「前に、犬のゝは耳で、太陽の太(たい)のゝは二(に)だって話してたけど、刃のゝは「刀のここ」というしるしなの。」

「刀のここって？」

「刀には、峰(みね)と刃とがあるの。峰のほうでは切れないの。切れるのは刃のほう。刀の切れるほうに「ここですよ」ってゝでしるしをつけたの。」

「同じゝでも、いろんなのがあるんだね。」



【編集部：注】

甲骨文(こうこつぶん) = 殷(いん)代(紀元前 16 世紀から紀元前 11 世紀ごろ)に使われた文字。亀の甲羅や獣骨に刻まれた、卜占(ぼくせん = 占い)の内容と結果を記録したものであり、現在見ることのできる最古の漢字。

説文篆文(せつもんてんぶん) = 秦の始皇帝が天下統一(紀元前 221 年)に伴って制定した公文書用の書体が篆書(てんしょ)。この書体は、日本では、現在も印鑑などに用いられる。後漢の許慎(きょしん)は西暦 99 年に、中国最古の漢字字書「説文解字(せつもんかいじ)」を書き上げた。この書に、篆文が載っている。なお、許慎は、この書で、漢字の構成法と応用法を整理し「六書(りくしょ)」と名づけた。象形(しょうけい)・指事(しじ)・会意(かいい)・形声(けいせい)・転注(てんちゅう)・仮借(かしゃ)の六つで、前四つが構成法、後二つが応用法。この内、今回のコラムで紹介した「刃」は、「指事」。

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(3)

「ククク」って鳴くから、「鳩」

タモツ君の隣の席のサユリちゃんが言いました。

「タモっちゃん、鳩が鳴くの聞いたことがある？」

「うん。近くの公園にたくさんいるんだよ。クククって鳴いているよ。」

「そうだよね。先週、先生が二年生になったら習う字だけどって「鳥」という字を教えてくれたよね。」

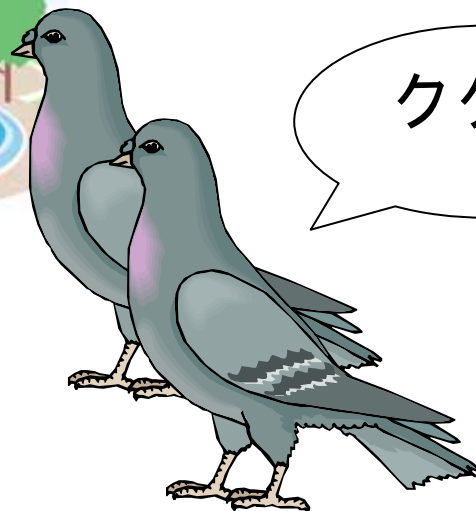
「うん。馬という字も教わった。」

「うちで漢字の練習をしていたら、お父さんが、サユリは「はと」という字を知っているか？
って言うの。知らないって言うと、「はと」は「ククク」って鳴くから、「鳩」って書くんだ
って。」

「ほんと！ クククって鳴くから、数字の九をつけて、「鳩」なんだ。」



九 + 鳥 = 鳩
(ク)



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(4)

犭(けものへん)に苗(びょう)で「猫」

「おばあちゃん、サユリちゃんが言ってたけど、「はと」は「ククク」って鳴くから、漢字で書くと、「鳩」なんだって。」

「むずかしい字を教わったのね。」

「うん。でも、すぐ覚えたよ。」

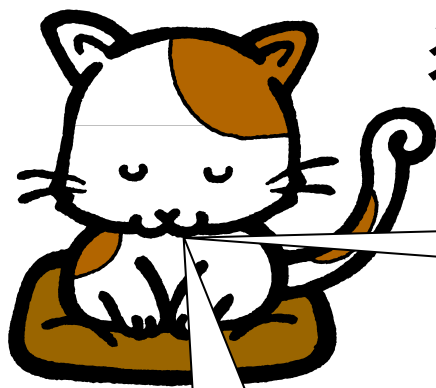
「おばあちゃんも、むずかしい漢字を教えてあげようか。」

「うん。どんな漢字。」

「猫はなんて鳴くかな。」

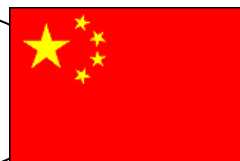
「犬はワンワン、猫はニャー。」

「そう。でも、中国の人の耳には「ビョウ」って聞こえるの。だから、「なえ」のことをいう「苗(びょう)」という漢字を使って、犭(けものへん)に苗(びょう)で「猫」なの。」

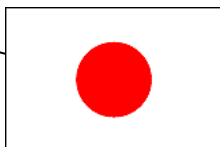


犭(けものへん) + 苗 = 猫
(ビョウ)

ビョウ



ニャー



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(5)

「白寿って？」

タモツ君のお母さんとおばあちゃんが話しています。

「お義母さま、先ほど、豊屋さんが「白寿(はくじゅ)」って言ってらしたけど、どういうことなのでしょう？」

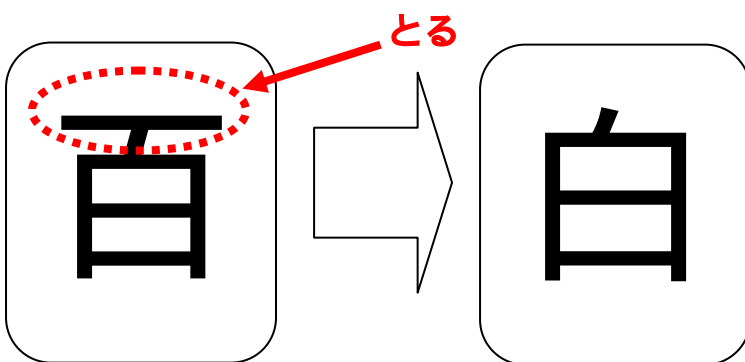
「ああ、ことば遊びのようなものですよ。「白」の字の上に「一」を加えると「百」になるでしょう。「百」引く「一(いち)」は「白」だから、「百」引く「一(いち)」=「九十九」ということ。九十九歳が白寿なの。」

「志学(しがく)が十五だとか不惑(ふわく)が四十だとかいうことは、昔、教わったように思いますけど……」

「子曰くの『論語』ね。六十が耳順(じじゅん) 七十が古稀(こき) 七十七が喜寿(きじゅ) 八十が傘(傘)寿(さんじゅ) 八十一が半寿(はんじゅ) 八十八が米寿(べいじゅ) 九十が卒(卒)寿(そつじゅ) などとも言いますよ。」

「あら、そんなにあるのですか。」

「喜寿から先は、どれも漢字によることば遊びのようなものなのよ。」



百引く一 = 白

100 1 = 99

【編集部：注】

数え六十一歳(満六十歳)のことを「還暦」とも言います。これは、その人が生まれた年の干支が、十干と十二支の組合せで六十一年目に元の干支に戻ることから「還暦」と言い、長寿であることを神様に感謝し祝う行事です。

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(6)

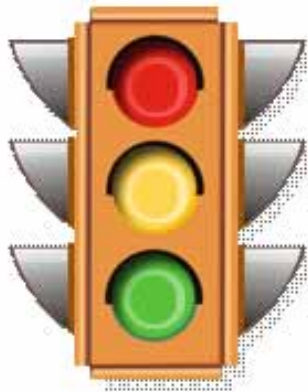
「みどりの信号が青信号？」

小学校の一年生は、午前中だけの授業です。学校から帰ったタモツ君は、お買い物に出かけるお母さんにくっついて、繁華街に来ました。信号が変わり、歩き出そうとしたお母さんの手を引いて、「信号が変わってもちゃんと確かめなさいって先生が言ったよ。信号はみどりでも青信号なんだよね。」と言いました。

学校で、赤信号は「止まれ」、黄色の信号は「注意」、青信号は「進め」と教わったのでした。「青信号でも、よく見てね。」とも教わったのでした。

青色発光ダイオードの発明で、青信号は明るく見やすい「青」にどんどん変わっていますが、タモツ君の町にはまだ「緑」色の信号があります。

古代の日本語には、色を表す「赤・青」と、明るさを表す「白・黒」しかありませんでした。草が青々と茂るように、「青」は「緑」をも含む色だったのでした。

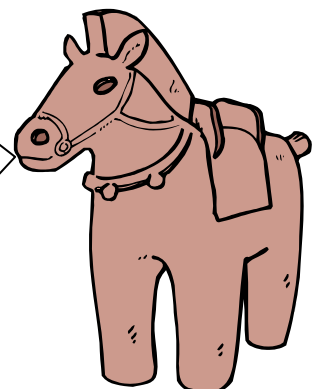


赤は、「止まれ」
黄色は、「注意」
青は、「進め」

あれ？
緑？ 青？ どっち？

古代の日本語

「色」を表す...「赤」と「青」
「明るさ」を表す...「白」と「黒」



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(7)

「セブン・カラース」

梅雨晴れの空に虹がかかりました。イギリスから来たすてきな女の先生と校庭で虹を見ていた小学校五年生のリサさんが言いました。

「ワット ア ビューティフル レインボウ ディス イズ！」

「ベリーグッド！」

先生は、リサさんの肩を抱き、こう言いました。そして、「ハウ メニイ カラース イズ イット？」と尋ねたのです。リサさんは、すぐに「せき とう おう りょく せい らん し！」と叫びました。先生は首をかしげ、虹を指さしながら、「レッド・オウリンジ・イエロー・グリーン・ブルー・パープル。」と言いました。リサさんは「スティックス カラース？」と尋ねました。先生は「ノー、セブン カラース。」と答えました。リサさんは変だと思いました。「藍」にあたる「インディゴ・ブルー」の抜けていることに気づかなかったのです。



赤 橙 黄 緑 青 藍 紫
(せきとうおうりょくせいらんし)

【編集部：注】虹の色の数は、現在の日本では一般的に七色（赤、橙、黄、緑、青、藍、紫）と言われていますが、世界的に見ると、地域や民族によって異なり、イギリスやフランスなどでは一般的に六色（赤、橙、黄、緑、青、紫）とされているようです。しかし、イギリスの小学校で習う歌の中で「セブン・カラース」という歌詞にふれるので、英国人は皆、知識としては「虹は七色」と知っているのですが、実際には、いつも「藍」を失念してしまうようです。



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(8)

「UVって、どういうこと？」

小学校五年生のリサさんが新聞の広告欄を見ていて、言いました。

「UVって、どういうこと？」

お母さんが言いました。

「お肌を傷める紫外線でしょ。」

「紫外線って？」

お父さんが言いました。

「目には見えない光線(電磁波)だよ。リサは虹の七色は知ってるね。そう、赤 橙 黄 緑 青 藍 紫(せきとうおうりょくせいらんし)だ。これが可視光線。赤よりも長い波の光線が赤外線、紫よりも短い波の光線が紫外線。」

「紫はパープルでしょ。アンダーパープルならUPでしょ。」

「残念でした。超堇色(ちょうきんしよく) ウルトラバイオレットでUVなんだよ。」

紫外線	可 視 光 線	赤外線
UV		

超堇色
= ウルトラ・
バイオレット

紫 =
堇(スミレ)色

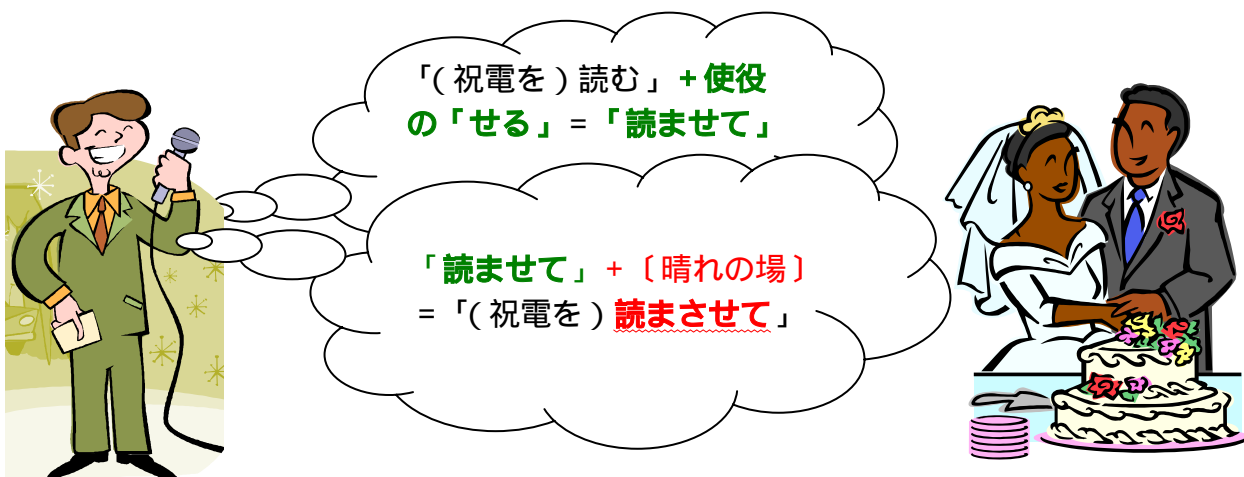
このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(9)

「祝電を読ませせていただきます。」

梅雨の季節。リサさんのお父さんと会社の同じ部署に勤めている女性は、結婚生活の守護神ジュノーの月であるというので、もう一年も前から、六月に結婚式を挙げることにしていました。結婚披露宴に招かれたリサさんのお父さんは、ジューン・ブライドの新婦の輝くような美しさに目を奪われました。職場でてきぱきとしごとを片づける魅力とは違ったものがあります。新郎とのこれからに期待と希望とが満ち溢れているのでしょう。

披露宴がお開きに近づいたとき、司会の男性が「ここで、祝電を読ませせていただきます。」と言いました。はっとしました。「読む」は「読まない・読みます・読む……」と活用するマ行五段活用の動詞です。五段活用の動詞には、使役の「せる」のつくのが規範文法のはず。「読ませて」でよいのに、晴れの場で格式のある言い方をしなければならないと思い、あえて「読ませせて」と言ったのだろう。お父さんはこう思いました。



【編集部：注】

わたしたちの毎日の暮らしのなかでの国語(言語)運用の実際は、今回のコラムのように、教科書が教えるような規範とは、必ずしも一致しない面がありますね。だからこそ、国語は奥が深く、楽しいものなのです。

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(10)

「ぼく、ピーマンも食べられるよ。」

週に一度の祖父母を交えての夕食の席でタモツ君が言いました。

「ぼく、ピーマンも食べられるよ。」

「そう。一年生になって、ピーマンも食べられるようになったんだ。よかったね。」

おじいちゃんが言いました。

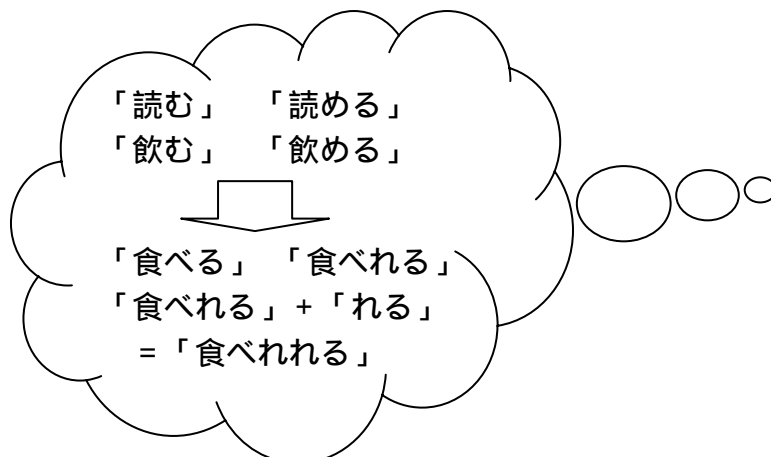
「食べられる」は最近よく聞かれるようになった言い方です。「食べる」は「食べない・食べます・食べる……」と活用するバ行下一段活用の動詞ですから、その可能の表現は、可能の助動詞「られる」をつけて「食べられる」になるというのが規範文法ですが、「読む 読める」「飲む 飲める」など、五段活用動詞が下一段活用の可能動詞になることからの類推がはたらくのでしょうか、「食べれる」という言い方がしばしばなされます。タモツ君は、その「食べれる」に、さらに可能の「れる」をつけてしまったようです。

「食べる」の活用

行	基本形	活用形						
		語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
バ行	食(た)べる	食	-べ	-べ	-べる	-べる	-べれ	-べろ・ -べよ

可能の助動詞「られる」

「食べ」 + 「られる」 = 「食べられる」



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(11)

「漢字の体操」

タモツ君のクラスです。先生が「漢字の体操です。」と言うと、タモツ君たちは一斉に席を立ち、一步右に出て、右手を斜め上に差し伸べます。左手利きのお友だちは左手です。先生が子どものほうを向いたまま、「一(いち)」と声を出し、手のひらを開いて左手で大きく右から左に一の線を書きます。子どもたちはこれにならって、「一！」と大声で叫びながら、先生の手動きと同じ向きに、すなわち、左から右に一の線を書きます。先生は「二。」と言って、左手で上から下へ一本の線を書きます。おわりはしっかり止めます。子どもたちも同じようにします。先生は「三。」と言って、左手で左上から右下にかけて斜めの線を書きます。終わりのほうは、手のひらを傾けて「払い」にします。子どもたちも同じようにします。「四。」と言い、左手で右上から左下に斜めの線を書きます。終わりのほうは払いです。これでおしまい。「木」という字が空中に書かれました。

【編集部：注】

「漢字の体操」は、紙もえんぴつも白墨(はくぼく=チョーク)も全てが貴重品となってしまった戦時中に、師範学校の教員たちが考え出した「漢字の空書き(そらがき)」が基となっています。

教員たちは、生徒たちに向かって「漢字の空書き」を行いましたので、ラジオ体操のごとく左右の動きが逆になった「鏡文字(かがみもじ)」としなければなりません。そこで工夫したのが、右手で太ももに漢字を一画ずつ書くという技法。「左手で鏡文字を書こう」と思わずに、右手の動きに合わせて動かすと、自然と鏡文字になります。人間の体は、その構造上、左右対称に動くようになっている点を活用したのです。

漢字の体操の素晴らしいところは、生徒一人ひとりの表情をみつめながらできる点だとのことですが、それよりなによりも生徒たちは身体を動かしながら学ぶ「漢字の体操」が大好きなようです。



「小学漢字 1006 字の書き方辞典」
監修：卯月啓子 / 小学館 による



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(12)

ちっちゃんな芽が出てる

タモツ君の妹、三歳になるエミちゃんがお母さんと近くに住むおばあちゃんの家に来ています。庭に出ていたエミちゃんが大きな声で言いました。

「おばあちゃん、こんなちっちゃんな芽が出てる!」

庭に下りたおばあちゃんがエミちゃんのそばに寄り、かがんで、言いました。

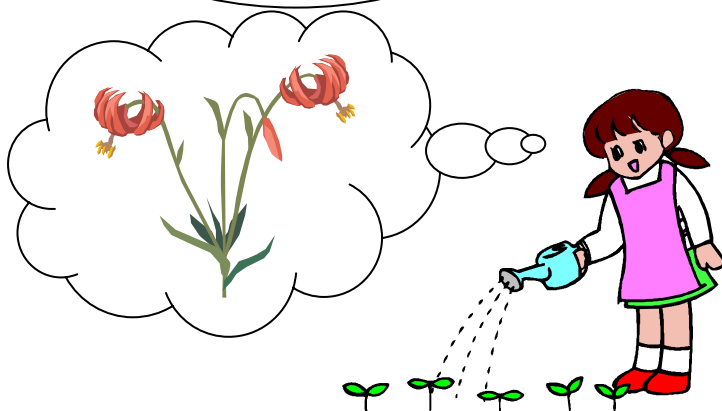
「あら、ほんとう。小さな芽が出ましたね。どんなお花が咲くのかな。」

「おっきなお花。」

「そう? こんなに小さな芽なのに、大きなお花が咲くかしら?」

「うん。咲く! 咲く! たくさんお水を飲んで、たくさん.....」

「そうね。お花はご飯は食べないけど、土の中にご飯やおかずのようなものがあるから、お花はそれを食べて大きく大きくなるのね。」



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(13)

「お父さん、縦が先だよ。」

日曜日です。タモツ君はお父さんと居間で漢字の筆順の勉強をしています。

「今度は、二年生で習う字の「馬」だよ。」

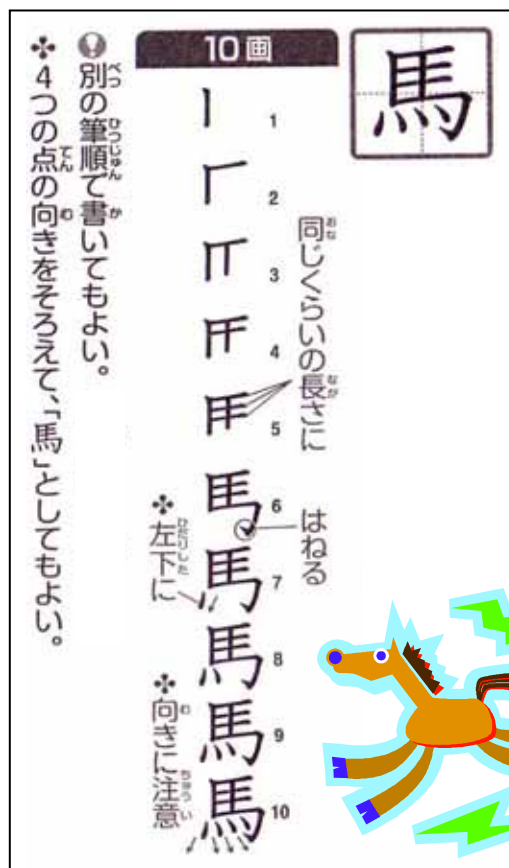
タモツ君は、右手で上から下へのしっかりした線を書きます。

「タモツ、最初の線は横の線じゃないのか。」

「違うよ。一は縦、二が横。」

「そうか。じゃ、縦。」

お父さんは、タモツ君と一緒に、縦、横、縦、横、横と筆を動かします。「六はむずかしいよ。」タモツ君はにこにこして、左から右の線を書き、曲げを作って下に行き、最後を撥ねました。お父さんはタモツ君のまねをします。「七、八、九、十!」、左止め、右止め、右止め、右止め。「馬」ができました。



「小学漢字 1006 字の書き方辞典」
監修：卯月啓子 / 小学館 による

【編集部：注】

「筆順」とは、人々の長年の経験を経て、書きやすい順番が残って伝えられてきたものであって、本来は“便利な筆順”、あるいは“書きやすい筆順”と呼ぶべきものなのですね。

しかし、「馬」のように、書きやすい筆順が複数ある漢字は、どの筆順が良いのか困ってしまいます。昭和 32 年(1957 年)に文部省が発行した『筆順指導の手びき』には、「止、上、必、馬」など、その実例が示されています。

学校での指導では、この『筆順指導の手びき』に掲げられた一番目の筆順を指導しているのですが、他の筆順が誤りということではないのです。

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(14)

「筆順って、変わるのかな。」

日曜日の夜です。タモツ君もエミちゃんももう眠っています。居間でお茶を飲みながら、お父さんとお母さんが話しています。

「今日はまいったなあ。「五」も「王」も、タモツに言われるまで、二画目の筆順が縦だなんて、知らなかったよ。「馬」の一画目だって、ずっと横に書いてきたもんなあ。」

「筆順って、一つじゃないのだって。この間、授業参観のときに、先生が言ってらしたわよ。必要の「必」なんて、四通りもあるのですって。「心」を書いてから最後に一画加える筆順だってあるって言ってらした。」

「じゃあ、「馬」の一画目は縦でも横でもいいってこと？」

「でも、それじゃ混乱するから、昭和三十二年に文部省が発行した『筆順指導の手びき』に出ている一番目の筆順を教えているんだって。」

五	王	必	
一	一	丶	1画
丿	丿	ノ	2画
𠄎	𠄎	乚	3画
五	王	必	4画
		必	5画

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(15)

「小腹がへったら」

デパートの地階のたこ焼き屋さんの前で、「小腹がへったら、 のたこ焼き」と大きな字で染め抜いてあるのぼりを見て、リサさんがお母さんに訊(き)きました。

「お母さん、小腹ってどこ？」

「小腹？ 小腹なんて、おなかのどこにもないわよ。」

「でも、ほら、「小腹がへったら」って、書いてあるじゃない。」

「ああ、「小腹がへったら」ね。「おなかが少しすいたら」ってこと。」

「そうなの。小腹なんて腹はないんだ。」

「ほら、「後ろ指を指す」っていうけど、後ろ指なんて指はないし、「横車を押す」っていうけど、横車なんてないじゃない。それと同じ。」

「そうか。指を後ろから指す、車を横から押すってことだもんね。」

小腹は、
おなかのどこに
もないんだね。



小腹がへったら
のたこ焼き

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(16)

「とんでもございません。」

「ごめんあそばせ。お落としになりましたよ。」

駅前で、こう声をかけられたタモツ君のお母さんは、びっくりして振り向きました。お年を召した婦人がハンカチを手をしているのです。見覚えのあるハンカチです。

「ありがとうございます。お手を煩わせまして……。」

「とんでもございません。どうぞお気をつけあそばして……。」

電車に乗ってから、お母さんは考え込んでしまいました。「ごめんあそばせ」とか「お気をつけあそばして」とかいうことばを聞いたのは、生まれて初めてのことだったからです。あそばせことばを使う人がまだ日本にはいたんだと、先ほどの老婦人の気品ある、しゃんとした姿を思い浮かべました。でも、「とんでもございません」は、「とんでもないことでございます」じゃないかしら。以前、お義母さんがそう言ってらした……。



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

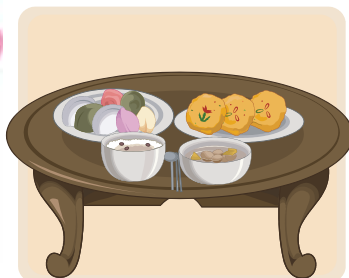
ことばのコラム ひとくちメモ(17)

「とんでもものうございます。」

「お義母さま、先日、ハンカチを拾ってくださった方にお礼を申し上げますと、「とんでもございません」とおっしゃったんです。あそばせことばを使いこなすような方なのですけれど……。」と、タモツ君のお母さんがおばあちゃんに尋ねました。

「そう。「とんでもない」というのは、「途でもない」からできた形容詞ですから、その一部分の「ない」を「ありません」とか「ございません」とかに換えることはできないの。「とんでもものうございます」というのがちゃんとした言い方なのだけど、「ありがとうございます。」「どういたしまして。」「いつもお世話になります。」「とんでもものうございます。」というように、決まりきった言い方をする場面では、長すぎて言いにくいのでしょうか。それで、連語の「滅相もない」が「滅相もありません」「滅相もございません」になるように、「とんでもありません」「とんでもございません」になるのじゃないかしら。」

「とんでもものうございます」
というのがちゃんとした
言い方なのよ。



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(18)

「空はウカンムリじゃないよ。」

タモツ君は漢字に夢中です。おじいちゃんにもらった小学生向けの国語辞典を開いては漢字のところを見えています。

「お母さん、今日「空」という字を勉強したんだよ。片仮名のウ・ハ・エって書くんだけど、この字はウカンムリじゃないんだって。」

「じゃあ、なにカンムリ？」

「アナカンムリって書いてある。」

「そう。「空」は「穴」に「工」なんだ。」

「でも、へんだよね。「穴」って字は、六年生で教わるんだって。」

「そう。「工」は？」

「二年生。図画工作の「工」だよ。ぼく、もう「穴」も「工」も書けるよ。」

空はウカンムリじゃないよ。
穴(アナカンムリ)だよ。



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(19)

「ノゴメヘンがある！」

タモツ君は漢字に夢中です。今日もおじいちゃんにもらった小学生向けの国語辞典を開いては漢字のところを見えています。

「お母さん、すごいわ。ノゴメヘンっていうのがあるよ。」

「ノゴメヘン？」

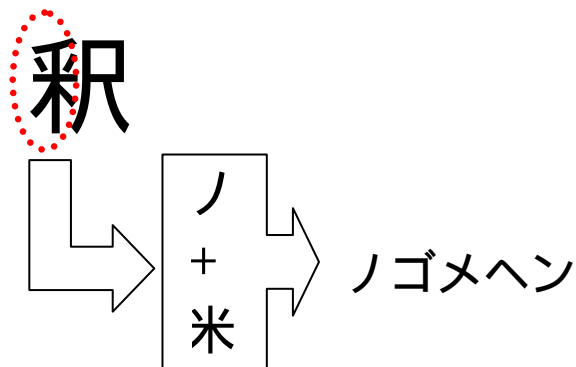
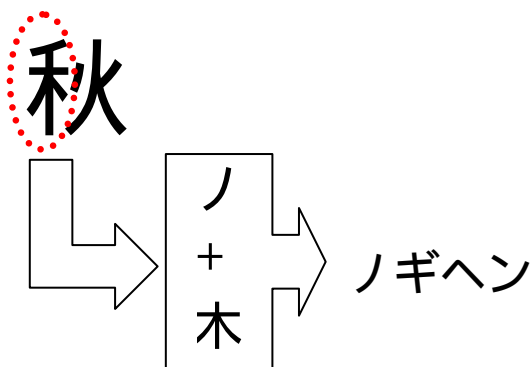
「そう。「秣」っていう字。」

「あ、そうか。解釈とか釈放の「釈」ね。「秋」が片仮名のノと木だからノギヘンだし、「秣」はノと米だからノゴメヘンなんだ。」

「でもね、お当番の「番」はノゴメヘンじゃないよ。」

「だって、お当番の「番」は、偏のところじゃなくて、冠のところにあるじゃない。」

「でも、ノゴメカムリでなくて、田の仲間なんだって。」



番

番は、田の仲間なんだよ。

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(20)

「部首と部首名」

タモツ君のお母さんがタモツ君のおばあちゃんの家に来て、話しています。

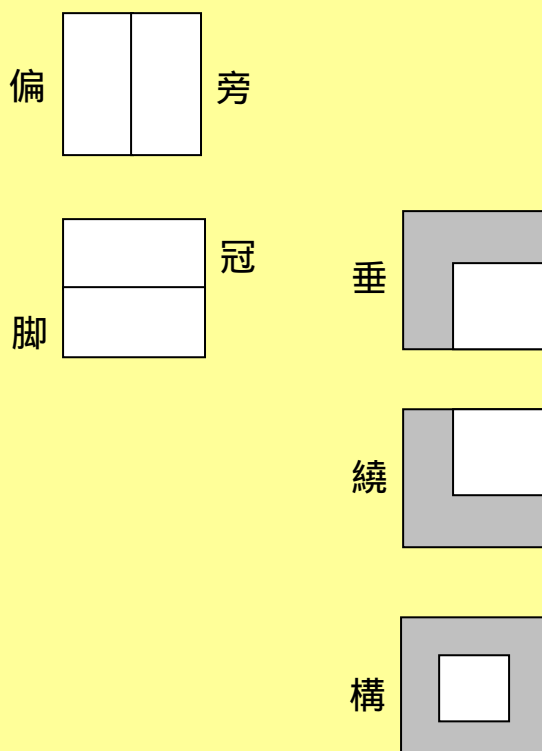
「お義母さま、タモツが漢字に夢中で、いろんなことを聞くんです。先日もノゴメヘンと
いうのを見つけて大騒ぎ。そのとき、お当番の番にもノゴメがあるのに、どうして田の仲間
なのかって。」

「あら、素晴らしいじゃないの。部首と部首名ってややこしいのよね。漢字の部分をいう
名と併せていうものだから。」

「漢字の部分ですか。」

「そう。偏^{へん}・旁^{ぼう}・冠^{かん}・脚^{きゃく}・垂^{すい}・繞^{にょう}・構^{こう}。部首がこの部分のどこにあるかを併せていうこ
とがあるの。木の部でも、札・村・机・枝・板のように、偏になればキヘン。でも、本・末・
未・朱・条・束・果などは、部首は木だけど、キヘンとはいえないでしょ。」

【編集部：注】



構成要素

偏：左右に分けられる漢字の左の部分
旁：左右に分けられる漢字の右の部分
冠：上下に分けられる漢字の上の部分
脚：上下に分けられる漢字の下の部分
垂：上部が左部に垂れた部分
繞：左部が下部にめぐった部分
構：まわりを囲んだ部分

参考

宮腰 賢 著
「大人の漢字 再入門」
2007年5月15日発行
株式会社インデックス・
コミュニケーションズ

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(21)

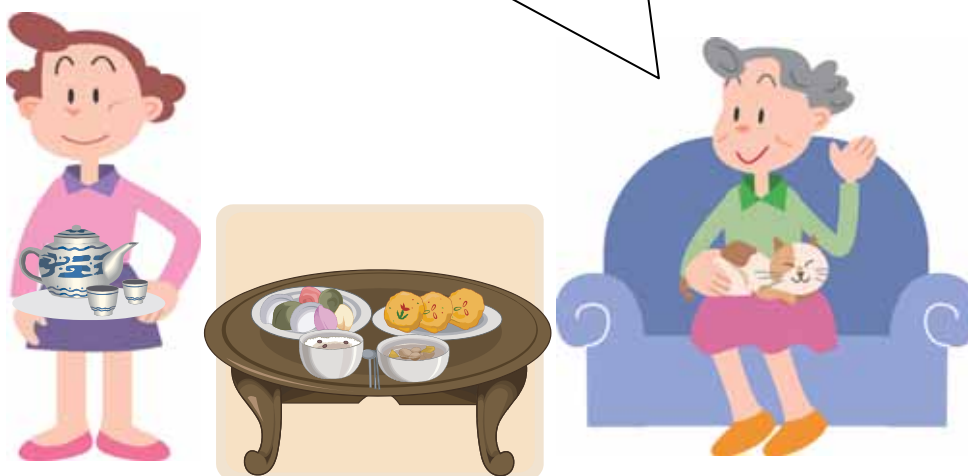
「番」と「播」

タモツ君のお母さんがタモツ君のおばあちゃんと話しています。

「漢字の部首と部分のことはわかったのですが、番という字が田の部だというのはどうしてでしょう。」

「そうね。番という字、今はノと米に見えるところ、大昔は千に点四つじゃなく、十に点が四つだったようなの。十文字に区切ったところにぱらぱらと種をまくようすなのね。その「采」と、きちんと区画した畑の形を字にした「田」とを組み合わせ、田にたねをまくという字にしたの。だから、漢字を分類するとき、田に関係のある字だからというので田の部に入れたのね。ところが、この字がかわるがわる順番にするという意味に使われるようになったの。それで、もとのたねをまくという意味のほうはテヘンをつけて「播」という字にしたというの。常用漢字表には入っていない、播種・伝播の播よ。」

「番」は、田に関係のある字だから
田の部なのよ。



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(22)

「ノツ木もある！」

タモツ君は漢字に夢中です。今日も国語辞典を見ている。

「お母さん、ノゴメヘンによく似てるノツ木もあるよ！」

「ノツ木？」

「そう。「サイ」「いろどる」って書いてある。」

お母さんはタモツ君のそばに来て、辞典をのぞき込みました。

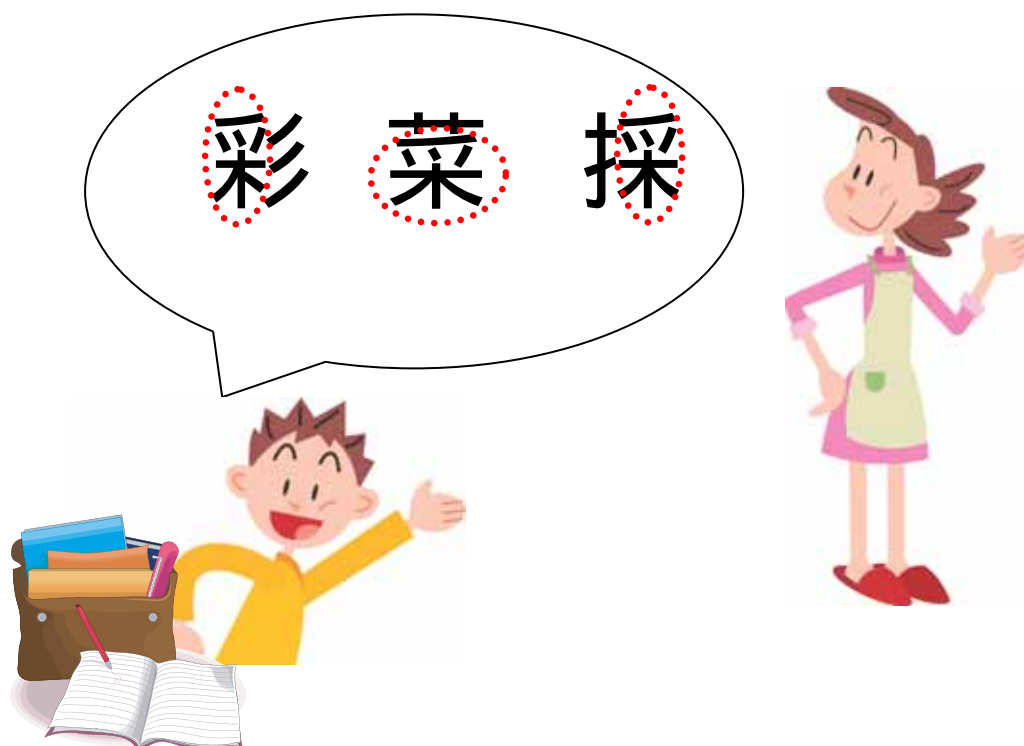
「あら、ほんとう。色彩の彩って、ノ米じゃなかったんだ。」

「四年生で習う野菜の菜にも、五年生で習う採集の採にもノツ木があるよ。」

「そうね。クサカンムリに采とテヘンに采なのね。」

「へんだね。どうして色彩の彩だけ偏のところにもノツ木があるのかな。」

「そうか。須藤さんの須は、偏が彡になってるもんね。」



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(23)

「ノツは爪、指を伸ばした手の形」

タモツ君のお母さんがタモツ君のおばあちゃんと話しています。

「お義母さま、タモツの漢字熱中症には、食傷気味ですの。」

「あら、結構じゃありませんか。ゲームに夢中になるのと同じですから。」

「先日も、色彩の采はどうして偏のところにあるんだろうって。」

「そう。テヘンに采で採集の採、クサカンムリに采で野菜の菜、采に彡で色彩の彩。ほら、みんなサイって音でしょ。采が音符なのよ。彡は髪の毛とか光線とかきれいにそろっていることを表しているの。こちらが意符なのね。采のノツに見えるところは爪なの。」

「爪ですか。」

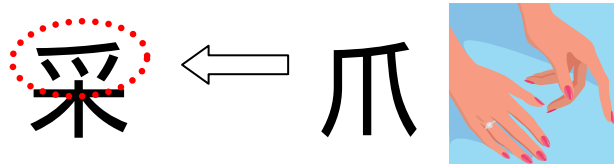
「そう。指を伸ばした手の形。采というのは、木の実を手でとることを表したのね。音符として使われるようになってから、もとの意味にテヘンをつけて採にしたの。」

【編集部：注】

音符：〔形声による〕漢字の構成部分で、音を表わす部分。
例、河における「可」。

意符：偏と旁などの二つの部分から構成される漢字において意義を分担する方。
人偏(にんべん)・三水(さんずい)・しんにゅうなど。

参考
「新明解 国語辞典」
三省堂



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(24)

「ノツがクになっている！」

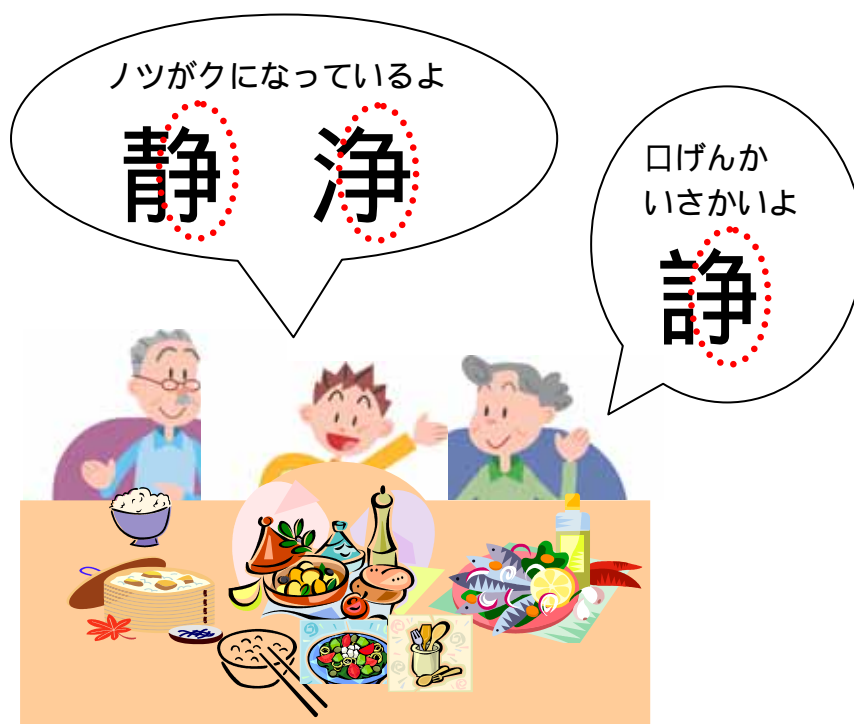
タモツ君が週に一度のおじいちゃんおばあちゃんを交えての夕食のときに言いました。

「おばあちゃん、ノツ木のノツは爪だったって、お母さんに教えてくれたけど、おじいちゃんにもらった辞書を見ていたら、ノツがクになっている字があったよ。」

「あら。なんという字かしら。」

「戦争の争。」

「すごいじゃないの。よく見つけたわね。「争」の字は「静」という字の右側にもあるわね。サンズイがつくと、浄化槽の「浄」になるのよ。クに見えるところが指を伸ばした手の形、片仮名のヨのまん中の棒が突き抜けたように見えるところも右手なの。下を撥ねた縦の棒は力こぶのできた腕ともなにか棒のようなものともいうけど、ひっぱりっこしているのね。だから、戦争の争、あらそうっていう字なの。ゴンベンがつくと、口げんかよ。」



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(25)

「金さん」は「キムさん」？

小学校五年生のリサさんがお父さんお母さんと一緒に夕食どきに言いました。

「きょう、韓国の小学生が学校に来たんだよ。出版社のご招待で日本に来たんだって。」

「それでリサの学校見学ってこと？」

「そう。キムスンファさんっていう六年生の女の子。漢字では金順花って書くんだって。」

「キンさんじゃないのね。」

「そうなの。みんながキンジュンカって読んだら、キムスンファだって……。」

「お父さんも韓国ではよく失敗するよ。日本ではキンだけど、韓国ではキムに近い発音なんだよね。日本語でも「ん」の発音っていろいろあるんだよ。サンマはm、女はn、電気はㄱ、三人は前のンが ㄴ でおしまいのンが ㄷ。金順花さんの金はmなんだね。」

「そう。唇を閉じてキムっていうの。サンマの「ん」と同じなんだ。」



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(26)

「うろん、もっと。」

お昼時、タモツ君のおばあさんとお母さんはうどんを食べています。タモツ君の妹、三歳になるエミちゃんは、うどんが大好きです。自分のうどんを食べつくして、

「うろん、もっと。」と言いました。

「エミちゃん、おばあちゃんのうどんではよかったら、あげましょうか。」

「うん。おばあちゃんのうろんでいい。」

「お義母さま、よろしいのですよ。エミ、食べ過ぎ。あとでおなかが痛くなるわよ。」

「ううん。うろん、もっと。」

「おばあちゃんのうどんを分けてあげますね。ほら。」

エミちゃんは、分けてもらった小皿のうどんをおいしそうに食べています。おばあさんは、幼児音の「うろん」がいつ「うどん」になるのかしらと思いました。



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(27)

「エミ、どろだらけだよ。」

おばあさんの家の庭で、タモツ君とタモツ君の妹のエミちゃんがおばあさんの庭仕事のお手伝いをしています。

「あ、エミ、顔が泥だらけだよ。泥だらけの手でほっぺたにさわったね。」

「エミ、ろろららけ？」

「うん、どろだらけ。」

「ろろららけ。」

「エミ、ど・ろ・だ・ら・け。」

「ろ・ろ・ら・ら・け。」

「ちがう。ど・ろ・だ・ら・け。」

「ろ・ろ・ら・ら・け。」



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(28)

「泥まみれって言えるかな」

家族みんなでの夕食どきに、タモツ君がお父さんに言いました。

「エミは、泥だらけって言えないんだよ。」

エミちゃんが言います。

「エミ、ろろららけって言えるもん。」

お父さんが言いました。

「そうだね。エミは、ちゃんとどろだらけって言ってるよね。じゃあ、泥まみれって言えるかな。」

「ろろまみれ。」

「そう。ど・ろ・ま・み・れ。」

「うん。ろ・ろ・ま・み・れ。」



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(29)

「梅は帰化植物？」

新春、小学校五年生のリサさんはお父さんと近くの神社に来ました。まだ厳しい寒さなのに、境内の梅の枝の蕾がふくらんでいます。お父さんが言いました。

「リサ、もう白梅の蕾がふくらんでいるよ。」

「これ？ほんとだ、先っぽがふくらんで緑色になってる。」

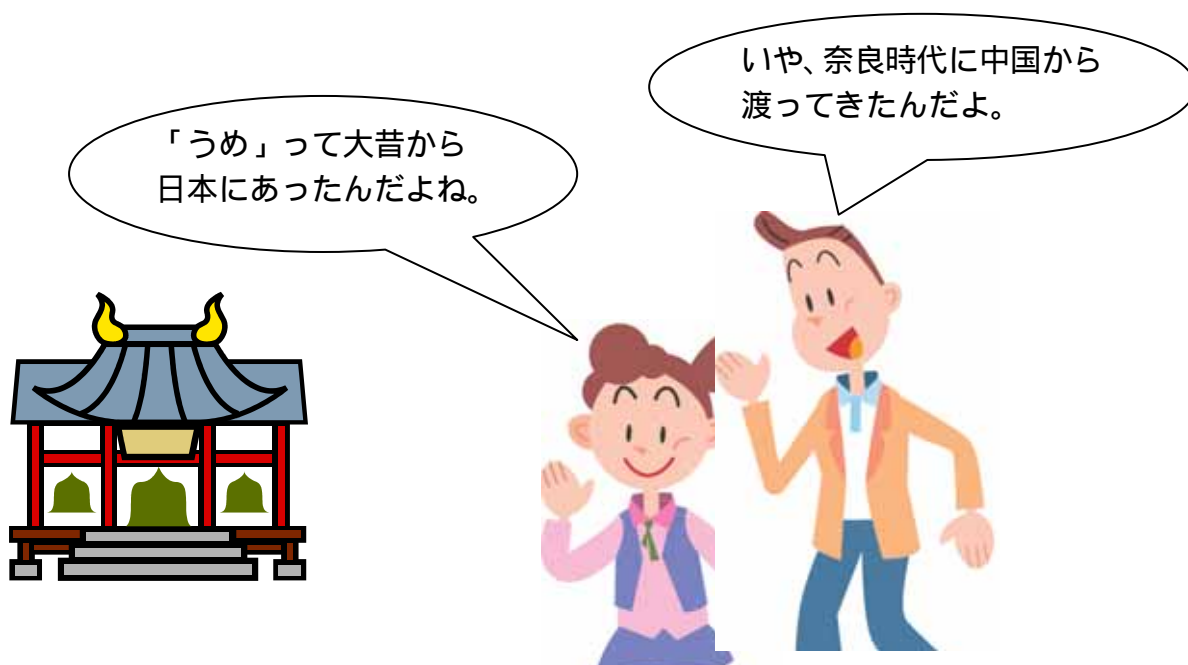
「あちらの紅梅の花芽はまだ固いようだね。」

「お父さん、「うめ」って大昔から日本にあったんだよね。」

「いや、菊と同じで、奈良時代に中国から渡ってきたんだよ。」

「でも、「ハクバイ」とか「コウバイ」とかの「バイ」が音で、「うめ」は訓でしょ。」

「ああ、そうか。「うめ」という訓があるから、大昔から日本にあったと思ったんだね。でもね、「うめ」は「mme」という音^{おん}がもとなんだ。「m」が「う」^{おん}になったんだよ。」



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(30)

「キキョウも帰化植物？」

家族そろっての夕食のとき、小学校五年生のリサさんが言いました。

「この間、神社でお父さんに「うめ」は音の「^{おん}mme」からできた^{くん}訓だって教わったけど、学校で先生に話したら、「馬」の訓の「うま」も音の「mma」からできたんだって教えてくれた。音は、馬車・乗馬の「バ」と駿馬の「メ」なんだって。」

「それはよかったね。訓というのは、漢字の意味にあたる日本語だということになっているけど、大昔に日本に伝わった音が日本語のようになっているのもあるんだね。」

お母さんが言いました。「菊とか桔梗とかのお花の名前には、訓がないでしょう。」

リサさんが言いました。「え、「ききょう」って、中国から来たの？」

お父さんが言いました。「そう。「きちこう」が「ききょう」になったんだよ。『宇津保物語』には「きちかう」、『源氏物語』には「ききやう」と書いてあるんだって。」



ききょう



「ききょう」も
中国から来たんだよ。

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(31)

「雪やこんこん……」

サユリさんがお父さんと犬のジョンの散歩をしています。

「あ、雪だ！」

お父さんが言いました。サユリさんは、空を見上げました。灰色の空から、花びらのように大きな雪がひらひらと舞い落ちてきました。まだ、ジョンは気づかないようです。

「ジョン、ほら、雪。「雪やこんこん、あられやこんこん」の雪。」

ジョンは、やっと雪に気づきました。尻尾を大きく振って、ワンと一声吠えました。

「サユリ、「雪やこんこん」の「こんこん」ってどういうことか知ってる？」

「雪が降るようすでしょ。雨なら、ザーザーとかしとしととか……。」

「残念でした。雪にもっと降って来い降って来いって呼びかけているんだよ。昔は「来む来む」と言ったんだ。今のことばだと、「来よう来よう」ということだね。」

残念。
雪にもっと降って来い
降って来いって呼びかけているんだよ。

「雪やこんこん」の
「こんこん」は
雪が降るようすでしょ。



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(32)

「紙は貴重品だったんだ！」

小学校五年生のりサさんが学校から帰ってくるなり大きな声を出しました。

「お母さん！ すごいんだよ。」

「お帰り。どうしたの、「ただ今」も言わないで。」

「ごめんなさい。ただ今！」

「はい。お帰りをさい。」

「今日、すごいことを教わったんだよ。「かみ」って、^{くん}訓じゃなかったんだって！」

「かみ？」

「そ。糸偏に氏名の氏の「かみ」。わら半紙・新聞紙の「シ」。……紙が発明される前には、竹や木を板のように薄くしたものに字を書いたんだって。竹簡とか木簡っていうんだって。その「カン」が日本語の「かみ」になったんだって。」



「かみ」は
^{くん}訓じゃなかったんだって！



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (33)

「三人（サンニン）の二つのンって？」

小学校五年生のリサさんが寝たあと、お母さんとお父さんが話しています。

「さっき、日本語の「ん」の発音にもいろいろあるってリサに話してたけど、三人は前のンが ㇿ でおしまいのが N というの、わたしにはよくわからなかった……。」

「うん。舌の位置が微妙だからね。」

「リサは、すぐにわかったみたいだったわね。」

「そう。ゆっくり発音しながら、確かめていたね。サンマのときは唇が閉じられ、女るときには舌の先が上の歯茎に触れ、電気るときには舌の奥のほうに触れている感じ……。」

「三人の前のンは、……そうか。女のンるときと違って、上の歯茎に触れないんだ。」

「そう。サンニンの前のンは、ニに引かれて舌が平らになるので、舌先が歯茎に届かないんだね。混信のシの前のン、犯人のニの前のンも同じだよね。」



- ・ サンマはm
- ・ オンナはn
- ・ デンキはㇿ
- ・ サンニン
- ・ コンシン
- ・ ハンニン

前のンは ㇿ
後ろのンは N

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (34)

「満員電車のイの前のンって？」

夕食時に小学校五年生のリサさんがお父さんに言いました。

「リサのクラスで、この間お父さんに教わったンのことで盛り上がったんだよ。」

「ほう。そんなことで。」

「うん。金さんはキムさんでキンさんでないことがおもしろかったからね。散歩とサンバ、テントと感電、音楽と電気、漢字といんちき……なんて、ンのあてっこ。」

「そうか。それはよかった。」

「わかんないのがあったんだよ。満員電車のマンインのイの前のン……。べろがどうなっているのかわからないんだよね。」

「なるほど。後ろのイに引かれて、ちゃんとしたンの口の形にならないんだね。マの母音のアが鼻にかかる鼻母音なんだろうね。発音記号では満員は māin になるのかな。」

散歩とサンバはm

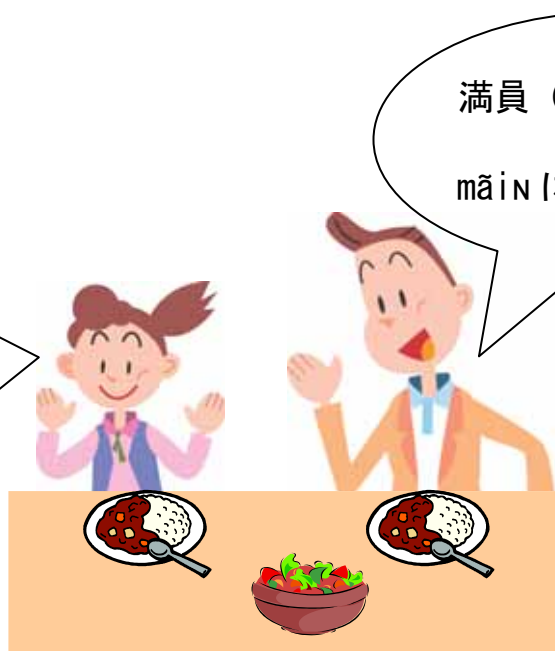
テントと感電はn

音楽と電気はr

漢字といんちきはj

満員は？

満員（マンンイン）は
māin になるのかな。



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(35)

「ためにならない？」

家族そろっての夕食のとき、小学校五年生のリサさんが言いました。

「お父さん、『情けは人のためにならず』って、人に親切にすることは自分のためになることだという意味だって、知ってた？」

「それは、『情けは人のためにならず』でなくて、『情けは人のためならず』じゃないか。」

「『ためにならず』じゃないの？」

「お母さんも、『情けは人のためにならず』だと思っていたわ。人に親切にすることはその人のためにならないって意味でしょう？」

「おや、おや。お母さんまでそう思っていたなんて……。正しくは、『に』の入らない『ためならず』で、ためでないということだよ。」

「わかった！ それで、人のためでない、自分のためだって意味になるんだ。」

「情けは人のためならず」は、
人のためでない、自分のため
だって意味になるんだ。



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(36)

「弘法にも？」

小学校五年生のりサさんが駅に近いお友だちの家から帰るときに、偶然、帰宅するお父さんに会いました。

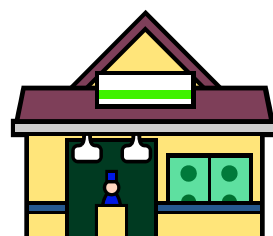
「お父さん！ ちょうどよかった。お友だちのところで宿題をしたんだけど、練習問題の設問の一つに、『猿も木から落ちる』と同じような意味の慣用句を選べというのがあったの。辞書で調べたら、『河童の川流れ』というのと『弘法も筆の誤り』というのがあったの。」

「なるほど。」

「試しに、この二つを引いてみたら、『弘法も筆の誤り』のほうは、『弘法にも筆の誤り』で出ていて、この間の『ためにならず』を思い出したの。『に』はないほうがいいの？」

「うーん、『弘法にも筆の誤りがある』というのと『弘法も筆の誤りをする』というのとの違いだけど、『をする』の省略より、『がある』の省略と考えるほうがよいのだろうね。」

「弘法にも筆の誤り(がある)」
省略



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(37)

「目に青葉？ 目には青葉？」

小学校五年生のリサさんが学校から帰ってくるなり、お母さんに言いました。

「まだ若葉の季節ではないけど、お母さん、『目には青葉山ほととぎす……』っていう俳句、知ってる？」

「あら、『ただいま』も言わないで、いきなり、質問？」

「あ、ごめんなさい。ただ今！」

「お帰りなさい！ それで、『目に青葉山ほととぎす初がつお』がどうかしたの？」

「ほら、お母さんも『目に青葉』だよね。みんなもそう言ったら、先生がこの俳句は山口素堂がつをと言う人の作品で、正しくは『目には青葉山ほととぎすはつ松魚』というんだって。」

「そうなの。作者は字余りで詠んだのに、俳句は五七五だから、そのほうが言いやすいので、いつのまにか『目に青葉』になっちゃったのね。」

正しくは「目には青葉山ほととぎすはつ松魚」
というんだって。



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(38)

「どこがタンで、どこがポポ？」

小学校一年生のタモツ君ももうすぐ二年生です。近くのおばあさんの家にきていて、座卓の上におばあさんの書いた絵手紙のあるのを見つけました。「蒲公英の待たれる季節になりました」という字とたんぽぽの絵が描いてあります。

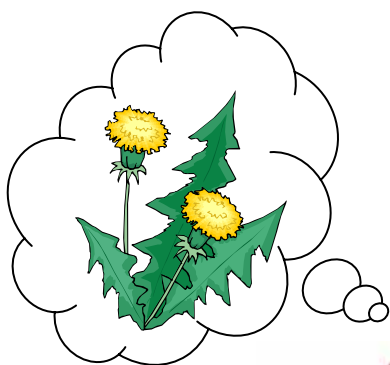
「おばあちゃん、この字、なんて読むの？」

縁側でお母さんと話していたおばあさんが言いました。

「ああ、それはお友だちに出す絵手紙なの。『タンポポの待たれるキセツになりました』って書いてあるのよ。」

「ふーん。『まつ』と『キセツ』はわかるけど、『蒲公英』のどこがタンで、どこがポポ？」

「それはね、三つの漢字全部で「たんぽぽ」なの。中国のことばで「蒲公英」というのが日本のことばでは「たんぽぽ」なの。こういうの熟^{じゅく}字^じ訓^{くん}というのよ。」



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(39)

「蒲公英、紫陽花、紫雲英」

週に一度のおじいさんおばあさんを交えての夕食のときに、小学校一年生のタモツ君が言いました。

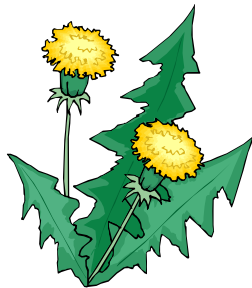
「日曜日におばあちゃんに『蒲公英』は『たんぽぽ』って読むって教わったけど、おじいちゃんにもらった辞典には、出ていなかったんだ。だから、お父さんの本棚にあった辞典を見たら、出ていたよ。ぼくの知っているお花の名前を引いてみたら、こんなのもあったよ。おじいちゃん、『あじさい』って、どんな漢字だと思う？」

「シヨウカ。『むらさき』に太陽の『ヨウ』に、『はな』さ。」

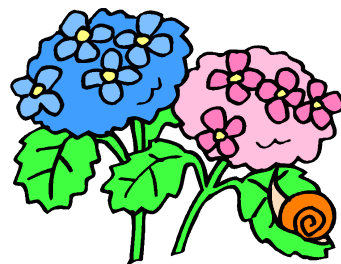
「すごーい。じゃあ、『れんげそう』は？」

「レンゲソウ？ ホウレンソウならわかるけど……。そう、『蓮華草』じゃないか。」

「うん。『蓮華草』と、『むらさき』に『くも』に英語の『エイ』なんだよ！」



蒲公英



紫陽花



蓮華草

紫雲英

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(40)

「沈丁花のゲって？」

週に一度のタモツ君の家に揃っての夕食が済んで、自宅に戻ろうと、タモツ君のおじいさんとおばあさんが住宅街の夜道を歩いています。

「^{じんちょうげ}沈丁花の香りがしますね。」

「うん。この花の香りがすると、卒業させた子どもたちの顔が浮かぶね。」

「もう、ずいぶん昔のことになるのに……。お互い、よい教え子に恵まれましたね。」

「そうだね。あ、沈丁花……。タモっちゃんに話してあげるんだったな。」

「ジンチョウゲは沈丁花と書かって教えてあげたら、喜んだでしょうね。沈丁花のゲは、^{しゃく}石楠花のゲと同じだけど、「花」にゲなんて音^{おん}がありましたっけ？」

「うん。「花」の漢音^{かんおん}がカ、呉音^{ごおん}がケ。「華」の呉音にはケとゲがあるけど、「花」のゲは、^{しゃくなん}上に石楠・沈丁がきたためにケがゲになった^{れんだく}連濁ということなのかな。」

「花」にゲなんて音^{おん}がありましたっけ？」

「花」の漢音^{かんおん}がカ、呉音^{ごおん}がケ。「花」のゲは、^{しゃくなん}上に石楠・沈丁がきたためにケがゲになった^{れんだく}連濁ということなのかな。」



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(41)

「蒲公英、紫雲英の英は？」

小学校二年生になったばかりのタモツ君がお母さんと近くに住むおばあさんの家に来ています。

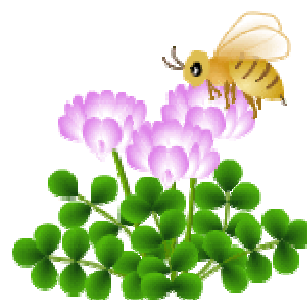
「タモツ、英語の英の字のこと、おばあちゃんにおききしてごらんさい。」

「うん。前にたんぽぽを漢字で書くと蒲公英だって教わって、辞書で調べたら、れんげそうは紫雲英って書くこともわかったんだ。あじさいの紫陽花やしやくなげの石楠花、じんちょうげの沈丁花はよくわかるけど、蒲公英や紫雲英の英って、英語・英国の英でも、英才・英雄の英でもないでしょ。」

「タモっちゃんは、ほんとうに漢字が好きなのね。ずいぶんよく調べたんだ。小学校の二年生では早すぎるけど、漢字の辞典があったほうがいいかもしれないわね。英には『はな』という意味があるのよ。人の名前で『はなぶさ』と読むこともあるの。」



蒲公英(たんぽぽ)



紫雲英(れんげそう)

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(42)

「ピンクいお花がいっぱい！」

四月。ぴかぴかの一年生が小学校の門をくぐります。校庭には桜の木があって、満開です。下枝の花ははらはらと散り始めています。

「お母さん、ピンクいお花がいっぱい！」

「そう。ピンクのお花がいっぱいね。桜の花よ。今年は、冬の寒さが厳しかったから、花の咲くのが遅れて、よかったわね。」

なんてすてきな母子(おやこ)なのでしょう。子どもが「ピンクいお花」と言っているのを、さりげなく「ピンクのお花」と言い換えています。「赤」が「赤い」、「青」が「青い」、「黒」が「黒い」、「白」が「白い」、「黄色」が「黄色い」になることからの類推で「ピンク」が「ピンクい」になると考えた子どもらしいことば遣いをとがめだてするものではありません。「茶色 茶色い」のように、やがて「ピンク ピンクい」も不自然でなくなるのでしょう。



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(43)

「コケコッコー」

タモツ君の隣の席は、去年の入学式のときに「ピンクいお花がいっぱい」と叫んだサユリちゃんです。サユリちゃんが言いました。

「タモっちゃん、雄鶏の鳴いたの聞いたことある？」

「ある。お母さんの田舎に行ったとき。」

「なんて鳴いてた？」

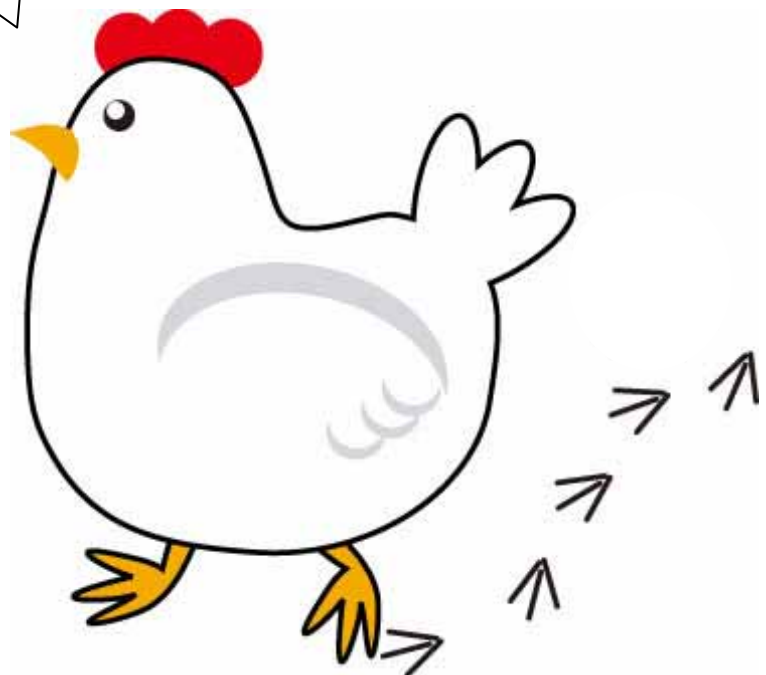
「コケコッコーって。」

「そうだね。コケコッコーだね。お父さんが言ってたけど、イギリスやアメリカの雄鶏は、コッカードゥドゥルドゥーって鳴くんだって。」

「ほんと？ イギリスやアメリカの雄鶏は英語で鳴くのかな。」

「きっと、英語で鳴くんだよ。」

cock-a-doodle-doo



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(44)

「コッカードゥドゥルドゥー」

「おばあちゃん、サユリちゃんが言ってたけど、イギリスやアメリカの雄鶏は、コッカードゥなんとかって鳴くんだって。」

「コッカードゥドゥルドゥーでしょう。」

「そう。どうして、コケコッコって鳴かないのかな。」

「フランスの雄鶏はココリコって鳴くし、ドイツの雄鶏はキケリキって鳴くのよ。」

「へんなの。」

「ほんとうは、みんな同じように鳴くのだけど、日本の人は日本語で、イギリスやアメリカの人は英語で、フランスの人はフランス語で、ドイツの人はドイツ語で聞くの。だから、その国のことばと同じような感じになるの。」

「そうか。イギリスやアメリカの雄鶏が英語で鳴くんじゃないんだね。」



cocorico



KIKERIKI



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(45)

「ぶらぶら」と「ひらひら」

夕食のあと、小学校6年生のリサさんがお父さんと話しています。

「イギリスから来ている英語の先生、おもしろいの。」

『先月は、桜の花がぶらぶら散りました。』って。」

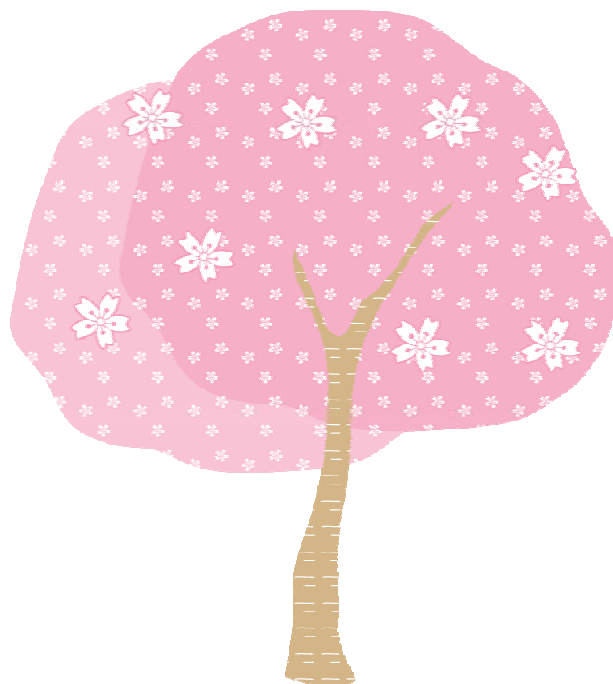
「桜の花がぶらぶら？」

「そうなの。リサが『桜の花はひらひら散りました、です。』って言ったら、『ゆっくり歩くのは、ぶらぶらでしょう。』って。」

「なるほど。それで？」

「うん。『日本語はむずかしいですね。英語には「ぶらぶら」や「ひらひら」はありません。』って。」

「そうか。英語では、ふつう、擬声語や擬態語を含んだ動詞になってしまうからね。」



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(46)

「ワーワー泣く」と「しくしく泣く」

夕食のあと、小学校6年生のリサさんがお父さんと話しています。後片付けを終えたお母さんも加わりました。お母さんが言いました。

「擬声語や擬態語を含んだ動詞って、どういうこと？」

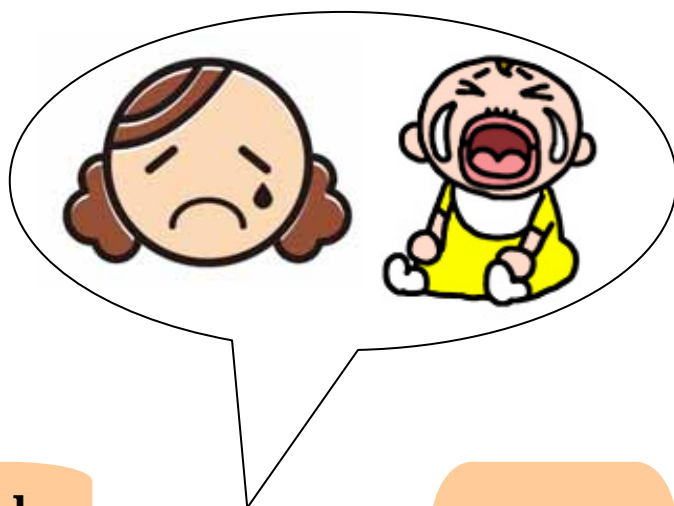
「うん。リサは、英語で『泣く』って、なんて言う？」と、お父さん。

「クライ。ドント クライ ソー ラウドって、教わった。」と、リサさん。

「あら、クライって、叫ぶということじゃないの？」と、お母さん。

「叫ぶという意味のこともあるけど、涙を流して大声を上げて泣くという意味でも使う。ワーワー泣くに近いかな。ウィーブがしくしく泣く、ソブがグスングスン泣く、スクリームがギャーギャー泣く……」

「そんなにあるの！」と、リサさんとお母さん。



Don't cry so loud.

cry
weep
sob
scream



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(47)

トゥインクル トゥインクル

「お母さん、ただ今！ 今日、すごいことに
気がついたんだ！」

「おかえりなさい。大事件？」

「そう。前に、トゥインクル トゥインクル リト
ル スターって歌、教わったよね。」

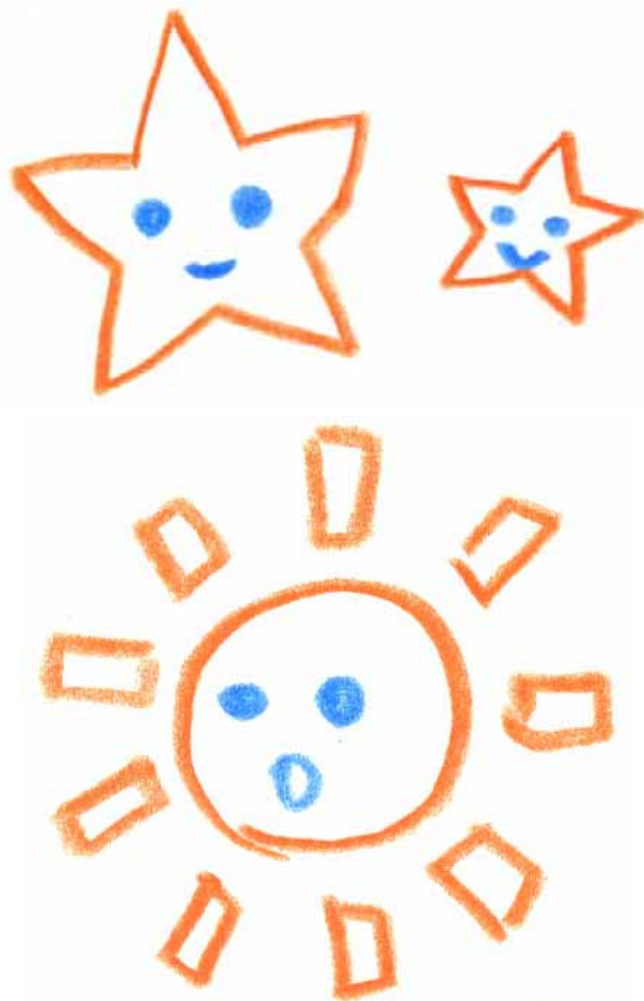
「お星さまきらり きらきらきらり……」

「そう、そう、そう、そう！ ほら、トゥインクル
って、きらきら光るってことでしょ。お父さんが
言ってたとおりじゃない？」

「ああ、英語には擬声語や擬態語を含んだ動
詞があるって……」

「そう。トゥインクルって、きらきらって感じと似
ているでしょ。」

「そうねえ。お日さまは、サンシャインだから、
シャイン……。トゥインクルがきらきらで、シャ
インがさんさん？ お父さんが帰ったら、きい
てみたら。」



twinkle
shine



このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(48)

「きらきら」と「さんさん」

夕食のあとです。親子三人でデザートを食べています。小6のリサさんのお母さんが言いました。

「今日、リサがすごい発見をしたのよね。」

「そ。お父さん、トゥインクルって、きらきら光るってことですよ。」

「あたり！ ぴかっと光るのがフラッシュで、きらきら光るのがトゥインクルだって、学生のときに英語の先生に教わったよ。」

「で、ほら、サンシャインのシャインは、さんさんと光り輝くのよね。」とお母さん。

「それも、リサの発見？ さんさんって、日本語の擬態語じゃないよ。」

「そうか。日本語だと、きらきら輝くか。」

「確か『燦々』と書くと思うけど、中国語にも擬声語・擬態語があるのかなあ。」



twinkle
flash
shine

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにでも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(49)

すいほまんさん だくりゅうとうとう 「酔歩蹒跚」と「濁流滔々」

駅の近くの喫茶店です。リサさんのお父さんとタモツ君のおじいさんが話しています。

「驚きました、高校時代の恩師の先生がこちらにお住まいだったなんて……。私どもがこちらに越してきて、まだ二年ですから。」

「そうでしたか。お嬢さんが孫のタモツと同じ学校なのですね。」

「早速ですが、先日、我が家で「太陽が燦々と輝く」

の燦々が問題になったのですが、中国語にも擬声語とか擬態語とかいうのがあるのですか。」

「専門外ですから、確かなことはわかりませんが、漢語にもあるようですよ。よろめく蹠跟とかよろまんさんよろ歩く蹒跚とか……。」

「太宰治の「走れメロス」には、濁流が「滔々」、水の流れる音が「潺々」、清水の湧き出るのがこんこん「滾々」と書かれていましたね。なんとなく感じがわかります。」



とうとう
滔々

せんせん
潺々

こんこん
滾々

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ(50)

梅雨と霪雨

タモツ君のおばあさんの家です。お持たせの
昼食を終えて、タモツ君のお母さんとおばあ
さんが話しています。

「もう、六月。梅雨の季節になりました。」

「時間の経つのが速くて……。タモっちゃん
の大好きなあじさいの季節ですね。」

「冷蔵庫のところにタモツの書いた絵がマグネッ
トでとめてあります。絵よりも添えてある「紫陽
花 あぢさゐ」という字がお気に入りのようす
けれど……」

「日曜日におじいちゃんに話してましたよ。梅の実の収穫の時期に降る長雨だから「梅雨」って書く
んだよね、って。」

「ええ。帰ってきて、『「ばいりう」は「霪雨」とも書く、っておじいちゃんに教わったよ。梅雨の季節はか
びの大活躍する季節でもあるから食中毒に気をつけなくちゃ』って……。」



かび
霪 + あめ
雨
ばいりう
= **霪雨**

